

国語科	「かたかなで書くことば」	
2 学年	実施の時期 実践者	平成15年12月 鳴瀬町立小野小学校 千葉 友吉

1. 実践の概要

<単元の流れ>

新聞を活用した授業

「新聞からかたかなをさがそう」

(第1時)

- ・教科書の絵を見ながら、片仮名で書く言葉を集める。

<学習の流れ>

①これまでの学習を振り返り、片仮名が4つに分類できることを思い出す。

(第2時)

- ・片仮名を4つに分類できることを知る。

②6つのグループに分け、新聞の番組欄(6放送局)から、片仮名を探す。

(第3時)

- ・新聞の中から、片仮名を探し、分類する。

③グループで相談して、5つに分類して発表する。

(グループ分け)

- ①どうぶつの鳴き声 (チュンチュン、ニャーオ等)
- ②いろいろなものの音 (カーン、ポチャン等)
- ③外国の、国・土地・人の名前 (インド、ショパン等)
- ④外国から来たことば (チーズ、パン、ピアノ等)
- ⑤その他 (児童が分類できない時)

2. 実践を通して

・番組欄を活用することによって、児童がたくさん探そうという意欲が高く、集中して取り組むことができた。

・5つの分類にしたのは、児童が判断に迷うと考えてのことだが、分類してみて分かったことは、あまりにも、分類できない言葉が多いということだった。

・①どうぶつの鳴き声は、1つもなかった。②いろいろなものの音は1つ(スイスイ)だった。③外国の、国・土地・人の名前については、イラク戦争関係の言葉が多く、その時期に話題になっている言葉が多くなるようだ。

・④外国から来たことばと⑤その他の分類が、児童には難しかったが、教師が助言したり、発表の段階で他のグループにも聞いて分類した。

・番組欄ということもあり、⑤の中には、本来日本語で表記される言葉でも、わざと片仮名で表記されていたり(コメ、キレイ等)、造語(ドレミノ、ニュースステーション等)や縮められた言葉(ミスチル、ロンブー等)があったり、グループ分けするには、とても難しいことが分かった。